●避難確保計画の項目

1.計画の目的・報告

2.施設の概要

3.施設が有する災害リスク

4.防災体制

5.情報収集

6.避難誘導

　避難先までの避難経路図（別紙1）

　施設建物内の避難経路図（別紙2）

7.避難に必要な設備の整備

8.避難に必要な装備品や備蓄品の整備

9.防災教育及び訓練の実施に関する事項

＊避難確保計画の様式【洪水】

◆自衛水防組織を設置しない場合

	項　　目	様式等	ページ
1	計画の目的・報告	様式１	1
2	施設の概要	様式１	1
3	施設が有する災害リスク	様式１	1
4	防災体制（活動体制）	様式２	2~5
5	情報収集・伝達	様式３	6~7
6	避難誘導	様式４	8
—	避難先までの避難経路図	別紙１	9
—	施設建物内の避難経路図	別紙２	10
7	避難に必要な設備の整備	様式５	11
8	避難に必要な装備品や備蓄品の整備	様式５	12
9	防災教育及び訓練の実施に関する事項	様式６	13
11	利用者緊急連絡先一覧表	様式８	15
12	緊急連絡網	様式９	16
13	外部機関等の緊急連絡先一覧表	様式10	17
14	対応別避難誘導一覧表	様式11	18
15	防災体制一覧表	様式12	19

避難確保計画は、全ての要素（様式）を検討・作成することを基本と考えて下さい。

計画作成後、市に提出する様式

【様式１～６】,【別紙１】

※様式6は自衛水防組織を設置した場合に提出

個人情報等が含まれるため、

市へ提出しない様式

（ただし、作成の上、施設にて管理）

0. 災害を特定する

（災害の種類、大きさと範囲）

岡山市ハザードマップで、自分の施設に及ぶ「災害の種類」、「大きさ」、「範囲」を確認しましょう。

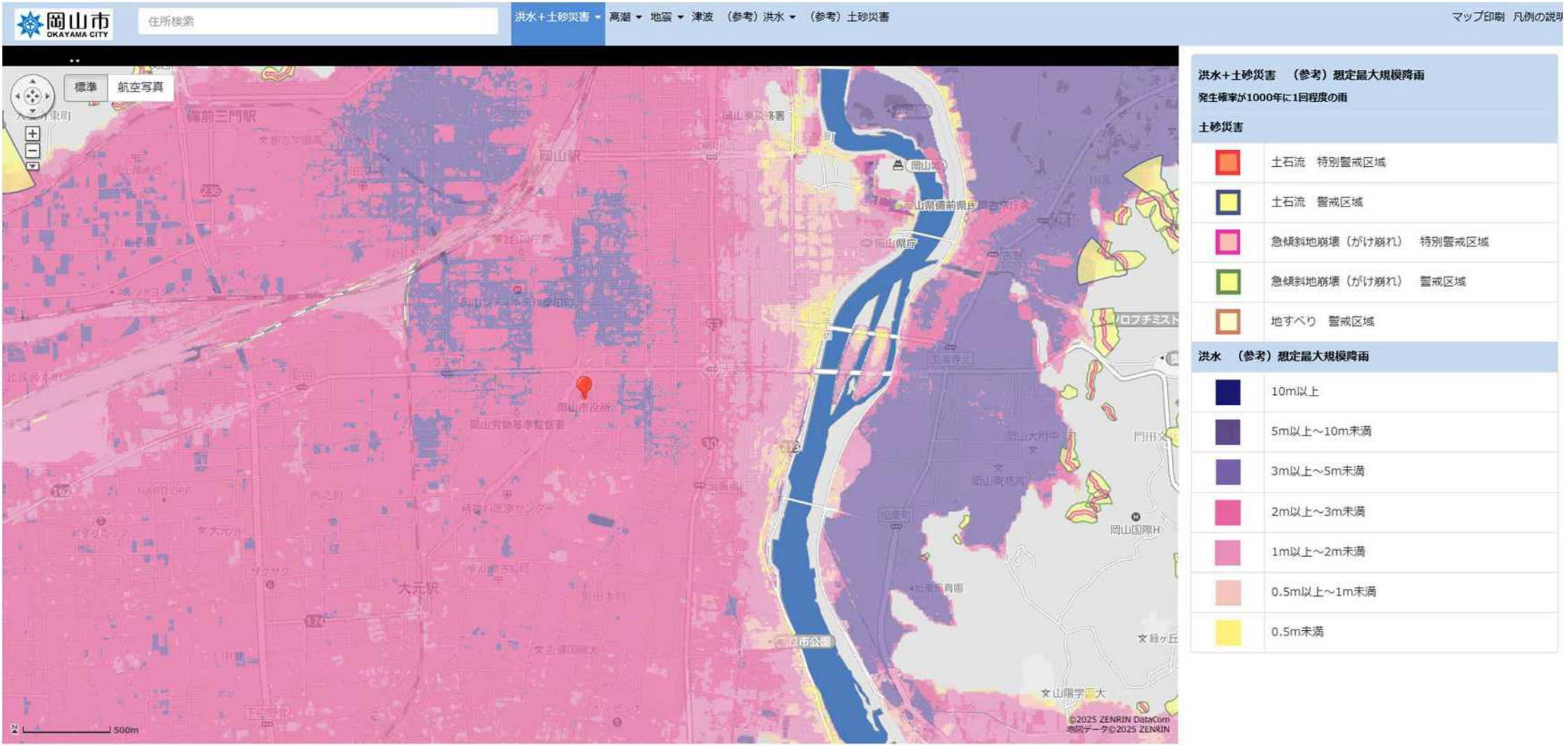
❶洪水ハザードマップ

❷土砂災害ハザードマップ

洪水・土砂ハザードマップ（想定最大規模降雨）

ハザードマップ

岡山市　ハザードマップ　検索



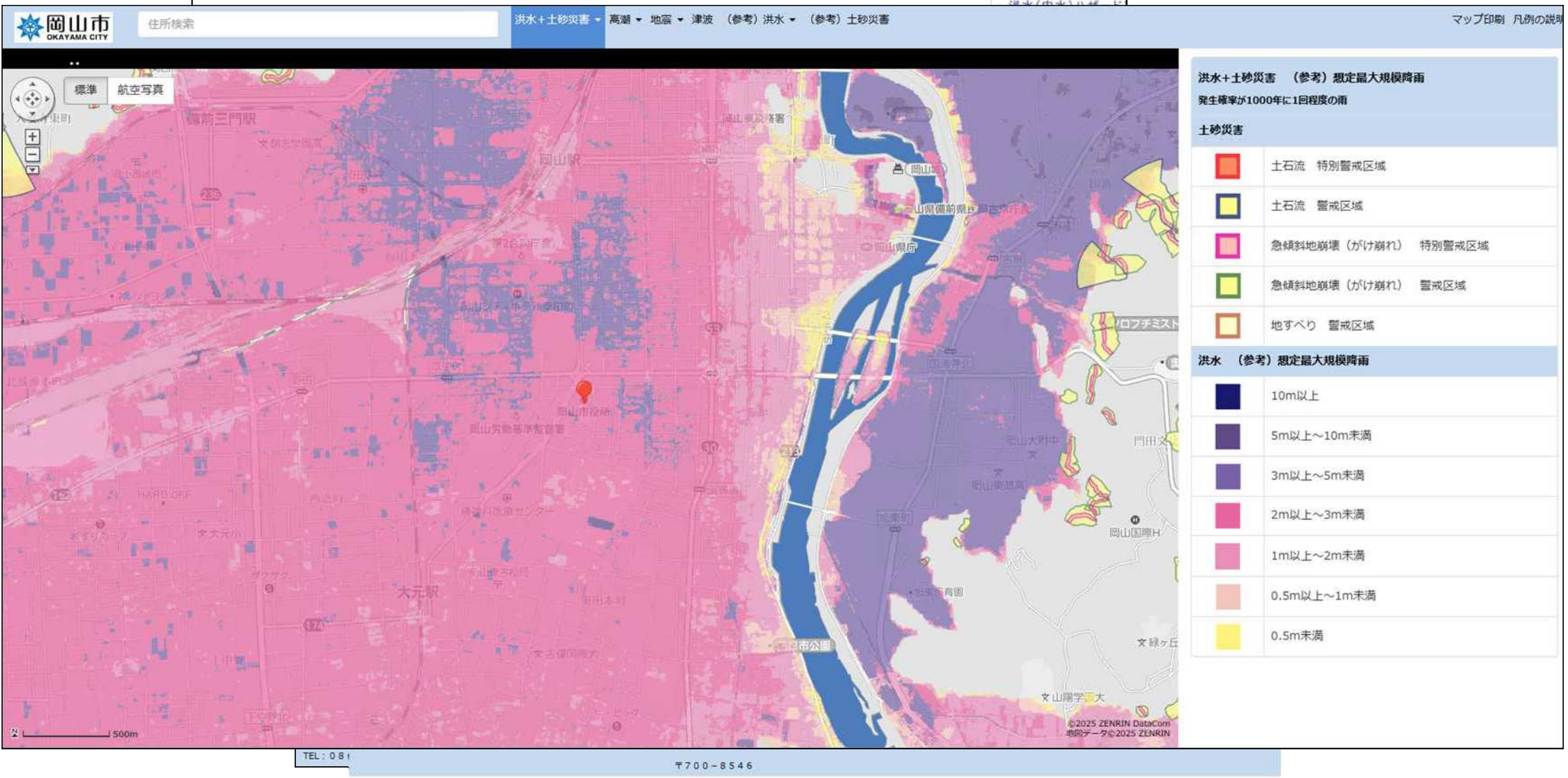
PC操作

洪水ハザードマップ（想定最大規模降雨）



PC操作

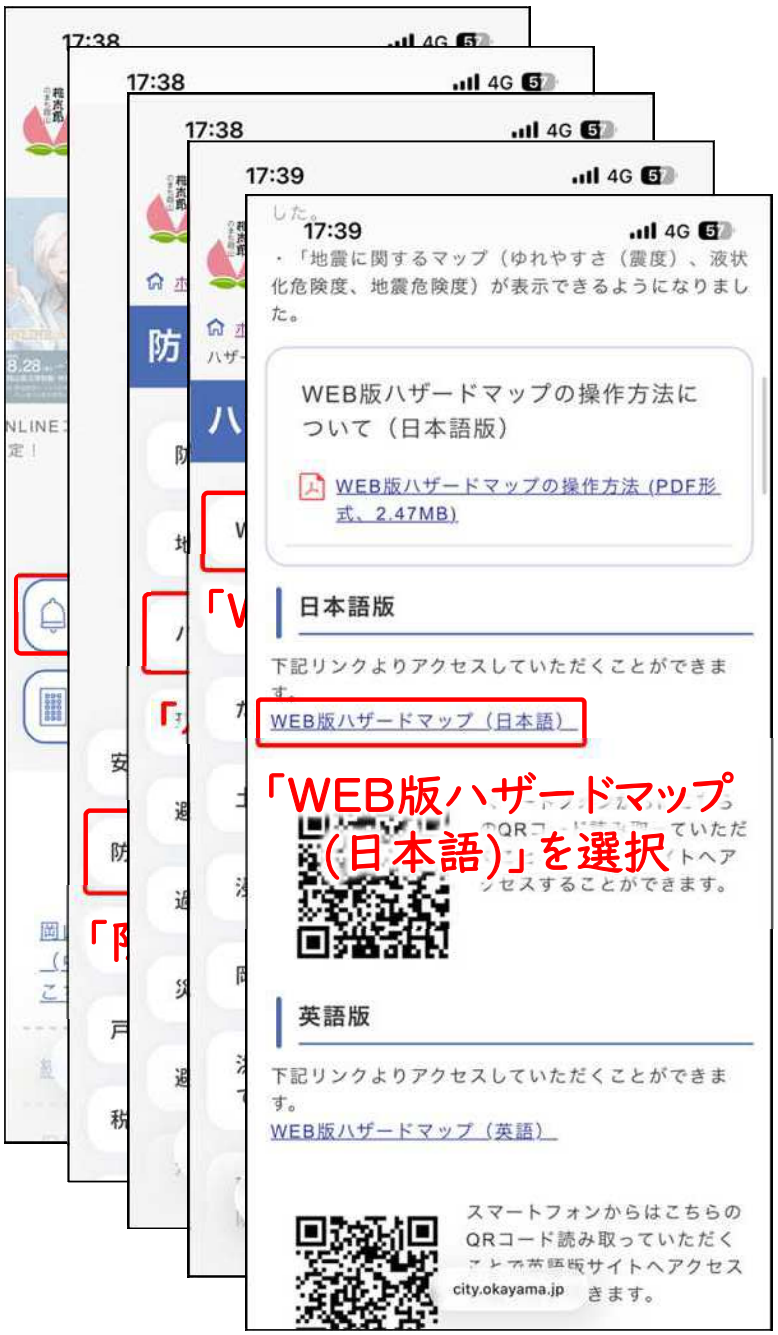
洪水ハザードマップ（想定最大規模降雨）

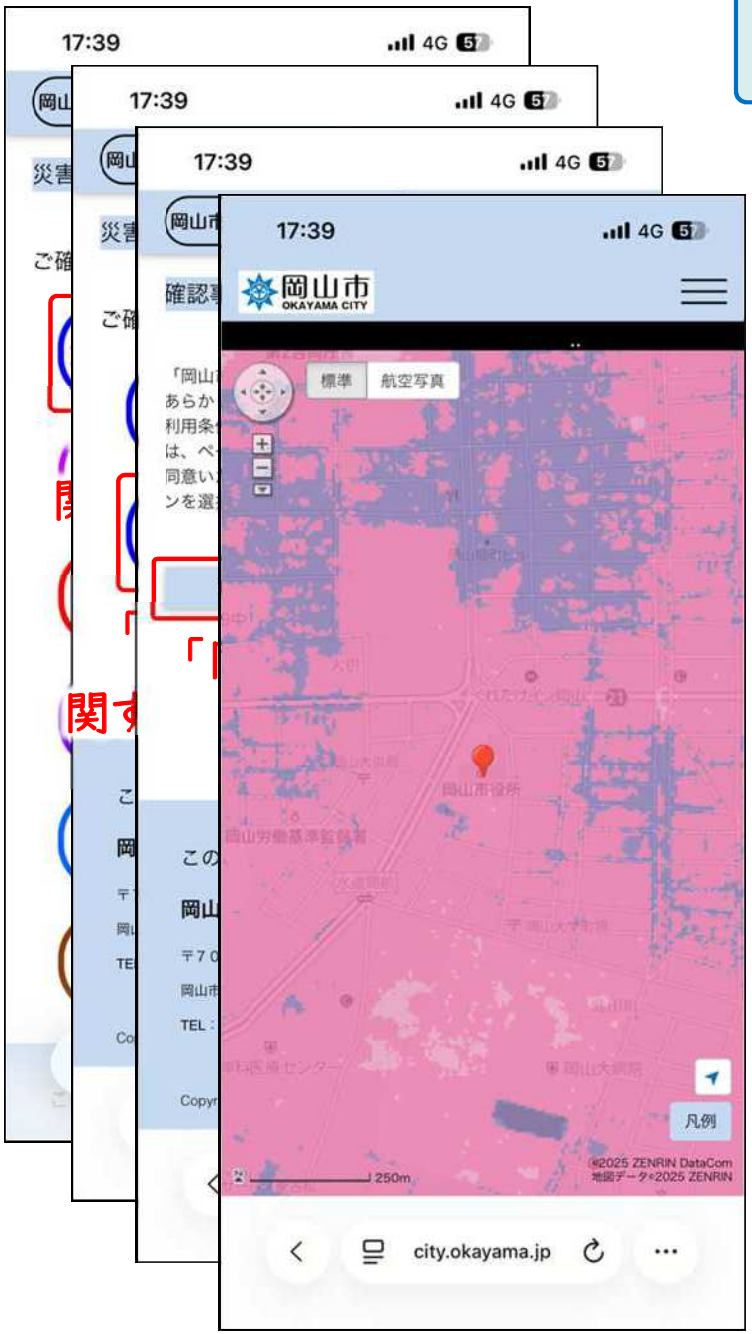


スマホ操作

洪水ハザードマップ（想定最大規模降雨）

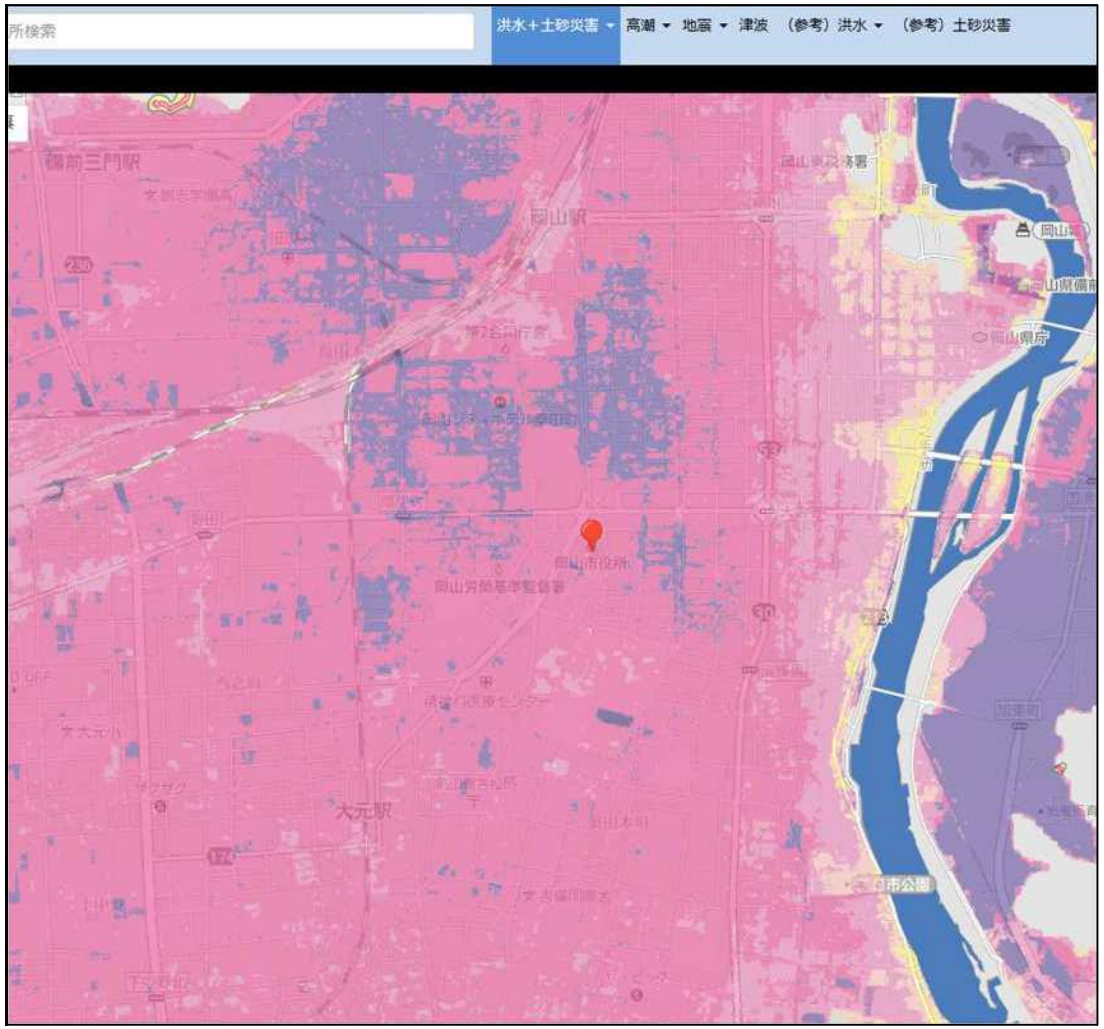
ハザードマップ



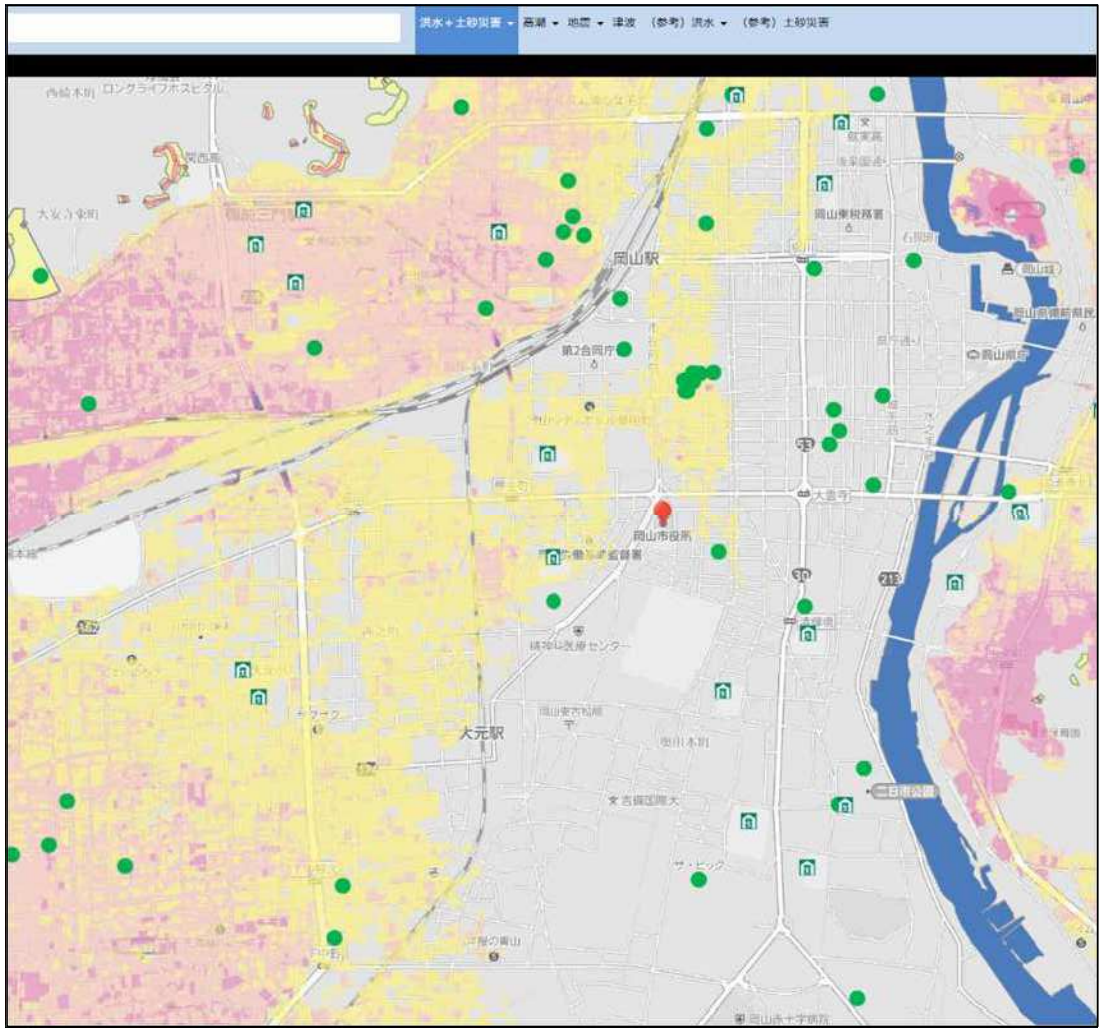


洪水ハザードマップ

【想定最大規模降雨】



【計画規模降雨】



浸水深を確認

避難場所を確認

岡山市HP

岡山市WEB版ハザードマップを更新しました

岡山県が公表した災害想定を受け、令和8年8月に岡山市WEB版ハザードマップを更新しました。

ハザードマップで避難場所や避難経路を確認し、災害に備えましょう。

→岡山市WEB版ハザードマップはこちらから

更新内容

津波ハザードマップ、震度(ゆれやすさ)分布図、液状化危険度分布図

令和8年2月に岡山県が公表した南海トラフ巨大地震発生時の「津波浸水想定図」、「震度分布図」、「液状化危険度分布図」を反映。

→岡山県ホームページ「岡山県津波浸水想定について」はこちらから 別ウィンドウで開く

→岡山県ホームページ「南海トラフ巨大地震による震度分布図・液状化危険度分布図について」はこちらから 別ウィンドウで開く

洪水ハザードマップ

令和8年3月に岡山県が公表した中小河川の「洪水浸水想定区域図」を反映。

→岡山県ホームページ「洪水浸水想定区域図」はこちらから 別ウィンドウで開く

今回追加された中小河川

【一級河川水系】

(1)旭川水系:倉安川・大堀川

(2)吉井川水系:永江川

【二級河川水系】

(3)笹ヶ瀬川水系:笹ヶ瀬川、田原川、中川、吉宗川、吉田川、日近川、足守川、浮田川、血吸川、桜川、久米田川

(4)倉敷川水系:妹尾川、丙川、宮川

(5)江川水系:江川

(6)幸田川水系:幸田川

(7)幸崎川水系:幸崎川、藤井川

市民のひろばおかやま

WEB版ハザードマップを更新しました

危機管理室　☎086-803-1082

WEB版ハザードマップの「洪水」、「津波」、「震度(ゆれやすさ)」、「液状化危険度」を、最新の内容に更新しました。なお、紙媒体のハザードマップ(洪水・土砂災害、津波)は、令和9年3月末頃に各区役所・支所・地域センター・公民館へ配架する予定です。




洪水

【参考】施設周辺が浸水した場合の影響

■施設が平屋建ての場合、3.0mの浸水で施設は天井付近まで浸かることになります。

■浸水深が0.5mの場合でも、ほとんど歩けなくなるものと考える必要があります。

0.5m～3.0m の浸水では…



0.5m 以下の浸水では…





平成30年7月豪雨時の倉敷市真備町の状況

写真）岡山県資料

●２種類の想定

（　※ハザードマップの浸水の深さと区域の違い　）

❶計画規模降雨：河川整備の基本となる降雨

＊旭川、百間川：概ね150年に１回程度の大雨（48時間に257㎜）

＊砂川（上道）：概ね100年に１回程度の大雨（24時間に228㎜）

＊笹ヶ瀬川、足守川、砂川（一宮）：概ね100年に１回程度の大雨（24時間に188.5㎜）

❷想定最大規模降雨

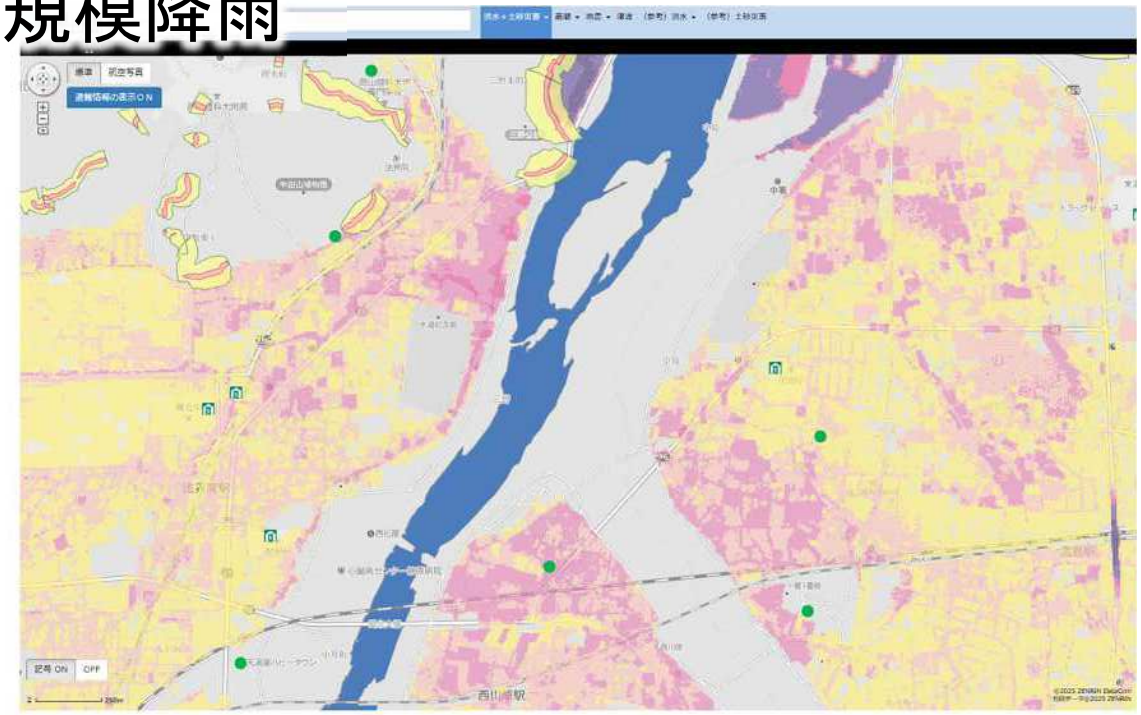
＊旭川流域：概ね1000年に１回程度の降雨48時間に756㎜を想定

＊「洪水浸水想定区域図（想定最大規模）」

＊「洪水浸水想定区域図（浸水継続時間図）」

＊「洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫区域図）」

❶計画規模降雨



	地すべり　警戒区域
洪水　計画規模降雨	
	10m以上
	5m以上～10m未満
	3m以上～5m未満
	2m以上～3m未満
	1m以上～2m未満
	0.5m以上～1m未満
	0.5m未満

❷想定最大規模降雨



洪水　（参考）想定最大規模降雨	
	10m以上
	5m以上～10m未満
	3m以上～5m未満
	2m以上～3m未満
	1m以上～2m未満
	0.5m以上～1m未満
	0.5m未満

＊水害リスクの最近の動向：浸水継続時間と家屋倒壊等のリスクを公表

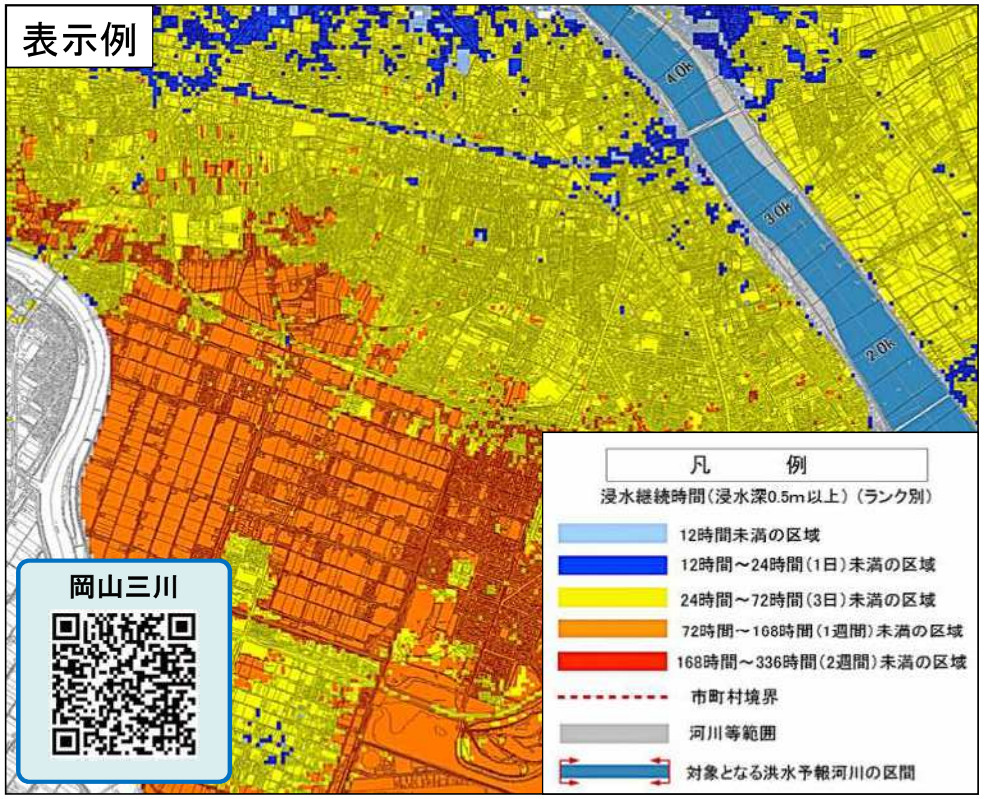
●水災害の激甚化による以下の恐れを踏まえ「浸水継続時間」「家屋倒壊等」のリスクが公表されています。これらは、避難行動・判断の参考になります。

➢洪水による浸水状態が続くことで「長期間にわたり孤立する恐れ」

➢水の流れの力が強い場合に「建物そのものが倒壊する恐れ」

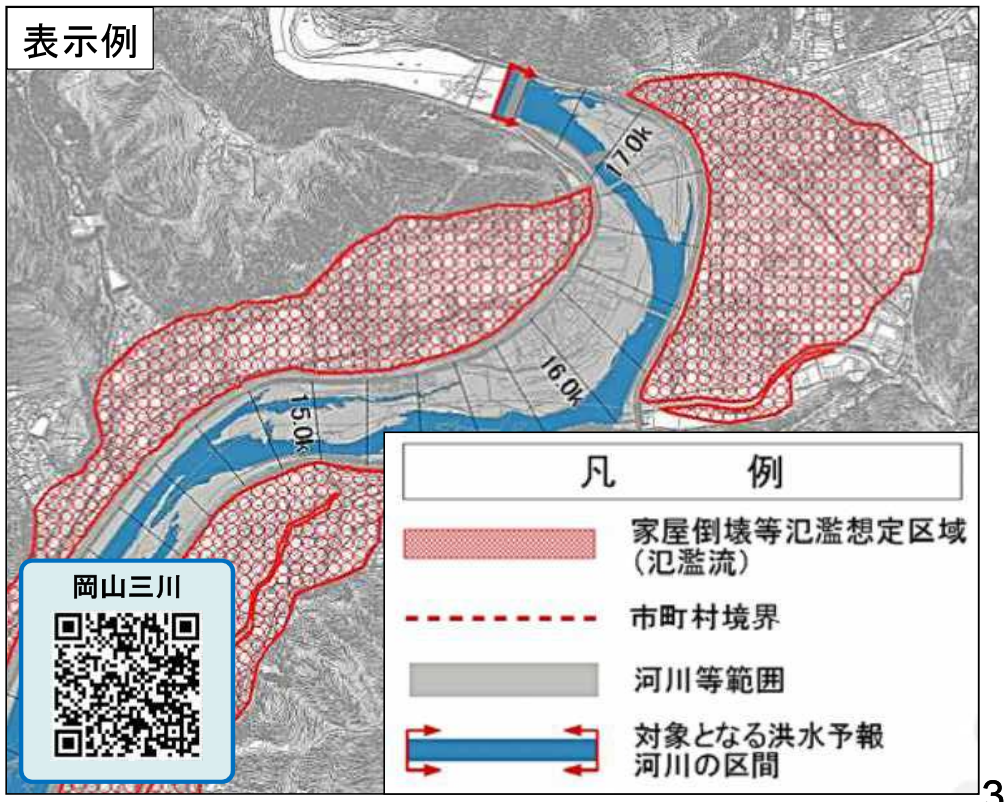
＜浸水継続時間＞

◇浸水深が50cmに達してから、その水深を下回るまでにかかる時間を示したもの



＜家屋倒壊危険ゾーン＞

◇洪水時に家屋が倒壊・流失する等の危険性が高い範囲を示したもの



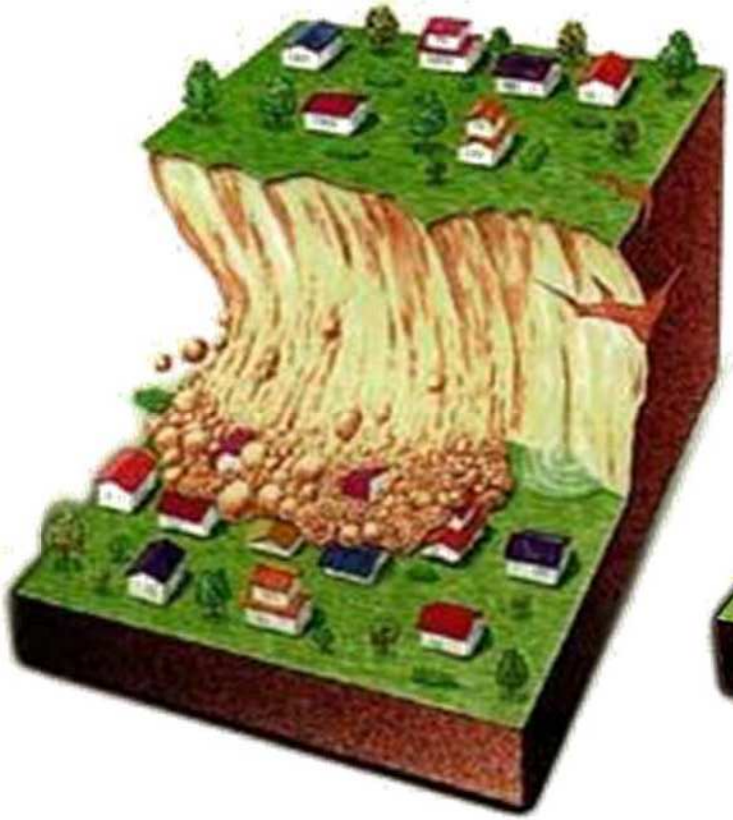
土砂災害

＊土砂災害について

■土砂災害の種類について

＜土砂災害＞
【崖崩れ】 背後等に急傾斜地（がけ）があり、降雨により崩壊し、被害のおそれがある場合
【土石流】 土石流が発生し、被害のおそれがある場合
【地すべり】 地滑りが発生し、被害のおそれがある場合

がけ崩れ



土石流



地すべり



＊土砂災害について

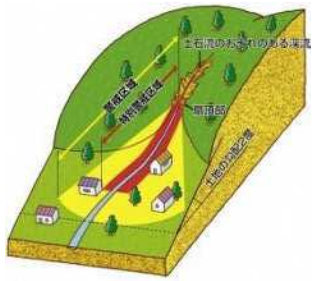
■土砂災害警戒区域等の指定

●土砂災害が起きそうな場所を
イエロー と **レッド** に分けて
みなさんにお知らせしています

急傾斜地の崩壊



土石流



地すべり



土砂災害警戒区域

○土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがある区域を指定

●情報伝達・警戒避難体制の整備【市町村等】
市町村地域防災計画において、土砂災害警戒区域ごとに、土砂災害に関する情報収集・伝達等その他警戒避難体制に関する事項について定める。

●ハザードマップの配布【市町村等】
警戒避難を確保する上で必要な事項を住民に周知させるため、避難地や情報伝達手段等を記載したハザードマップなどの配布等必要な措置を講じる。

土砂災害ハザードマップの作成・配布（茨城県鉾田市）



住民の避難訓練状況（沖縄県浦添市）



土砂災害特別警戒区域

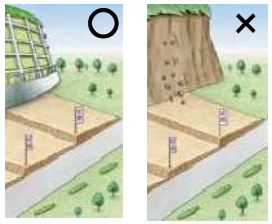
○土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域を指定

●特定開発行為に対する許可制【都道府県】
住宅宅地分譲や社会福祉施設、学校、医療施設の建築のための行為は、基準に従ったものに 限って許可される。

●建築物の構造規制【都道府県または市町村】
居室を有する建築物は、安全性を確保できる構造となっているかどうか、建築確認がされる。

●建築物の移転等の勧告【都道府県】
住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれが大きいと認めるときは、建築物の所有者等に対し、移転等の勧告の制度がある。

特定開発行為に対する許可制



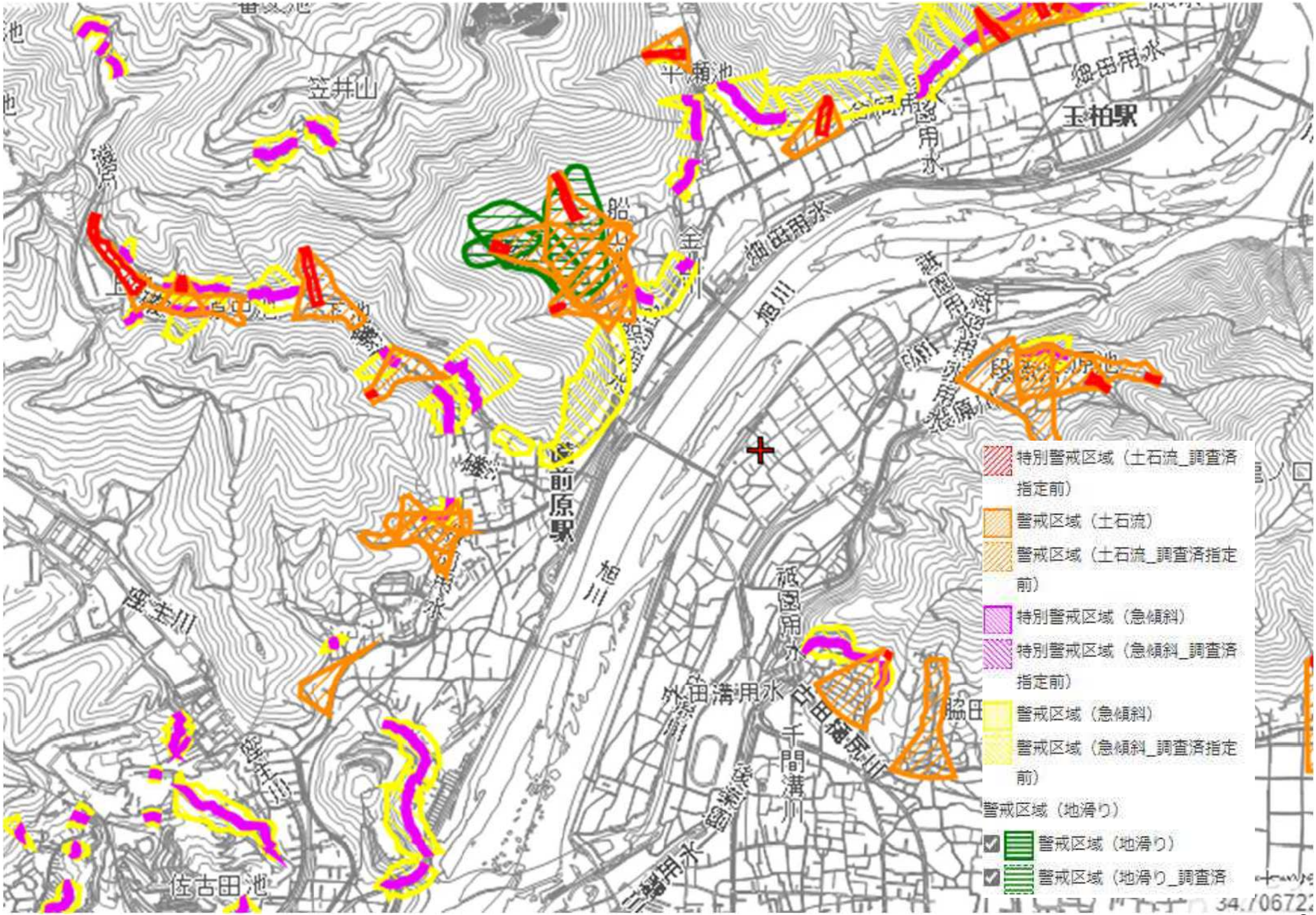
建築物の構造規制



建築物の移転等の勧告



＜国交省資料より引用ー部加工＞


笠井山
船
玉柏駅
前原駅
旭川
佐古田池
特別警戒区域（土石流_調査済指定前）
警戒区域（土石流）
警戒区域（土石流_調査済指定前）
特別警戒区域（急傾斜）
特別警戒区域（急傾斜_調査済指定前）
警戒区域（急傾斜）
警戒区域（急傾斜_調査済指定前）
警戒区域（地滑り）
警戒区域（地滑り）
警戒区域（地滑り_調査済

1. 計画の目的

2. 報告

3. 適用範囲